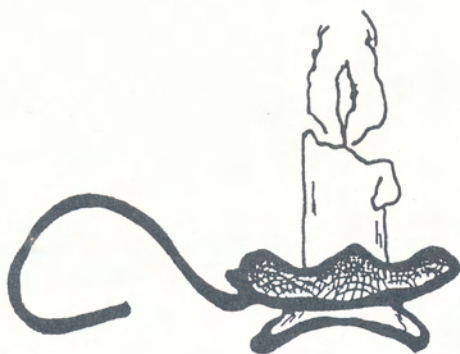


筵生活史

筵生活史研究会

笹生活史

笹生活史研究会



題字 笹生活史編集委員長 相川千代治



(写真所有者 野村廣司氏)

〈写真上〉
茅葺き屋根



〈写真左〉
囲炉裏 (いろり)

な
つ
か
し
の
風
景



運動会を終えて家路へ急ぐ
(片倉橋にて)



香木原小運動会(昭和32年10月16日)

一面のススキ原を山の乙女たちが炭を背負運びだす（清水）

— 昭和36年10月16日千葉日報 —

（本吉 ぶん氏提供）



炭しょい
（木炭の運搬）

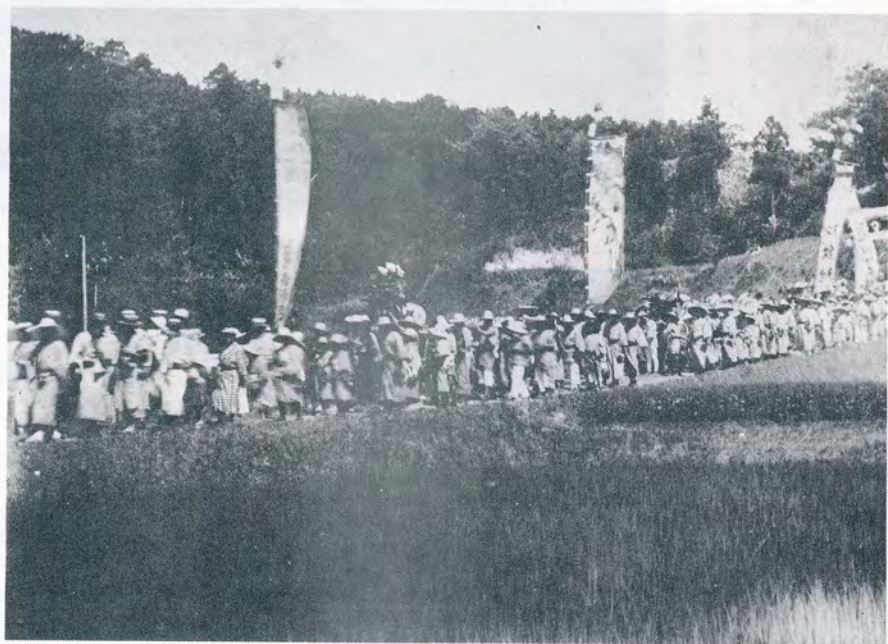


〈写真上〉 荷馬車



〈写真右〉 戦時中の松やに取り

〈写真下〉 笹山神社お祭り入れ込み（大正14年8月11日）



（写真所有者 鈴木正己氏）

なつかしの
教科書

庭訓往来
古文孝経

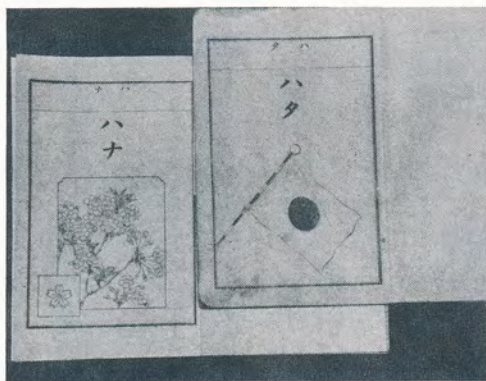
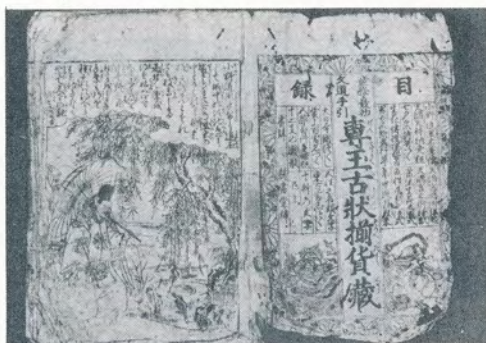


<写真左>

童学最初文道手引（寛政6年）
（寺小屋で使用）

<写真下>

小学読本（明治6年）



<写真上>

右：小学国語（明治43年～大正6年）

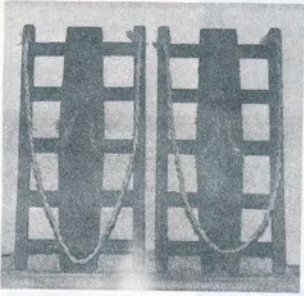
左：小学国語（大正7年～昭和7年）

<写真右> 小学国語読本（昭和8年～15年）

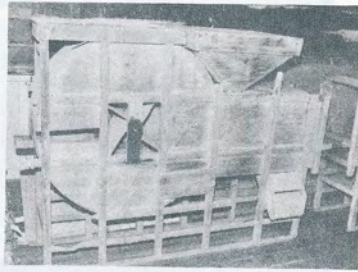


唐 箕

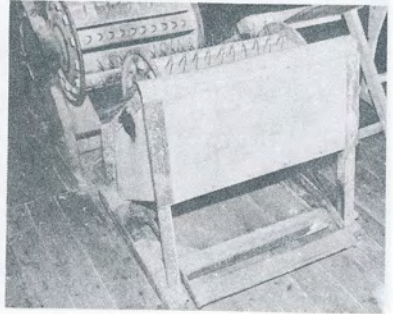
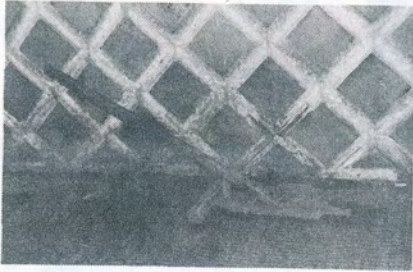
農具と
あかり



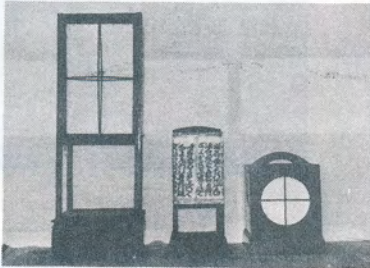
田下駄



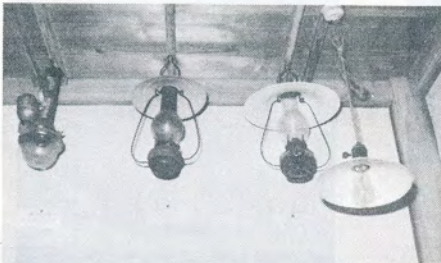
踏み鋤 (エンガ)



足踏脱穀機



行
灯



ラ
ン
プ



籠
提
灯

神社・寺院



山神社
(天明2年正一位が宜下された)

明覚院



(内家山) 明覚院
(山科町)



石造物

〈写真右〉
閑居様



〈写真下〉
子安地藏 (奥笹)



常夜燈 (山神社境内)
(天保14年)

左側面

是より右ハぶう志うみち
是より左ハ久留里みち

正面

辨敷岩正徳五乙未天五月吉日
杖村講中

右側面

是より右ハさと村

地藏様 (道標へ) 正徳五年

むじながま（穴窯）



木炭の生産
（炭焼窯）

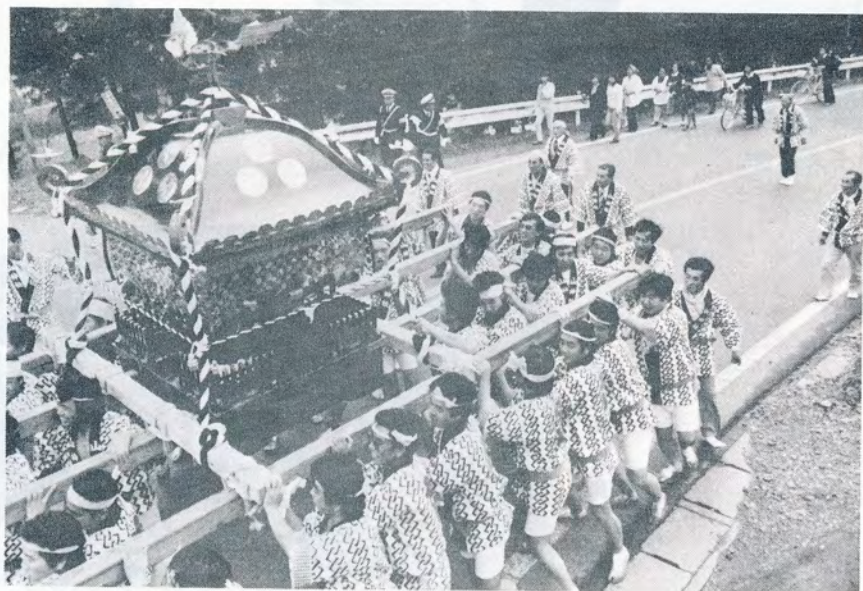


土天井窯

吊り天井窯



ふるさとの祭り



発刊を祝して

上総公民館長

須藤善造

ふるさと運動の一つである「笹生活史」が「きわだ風土記」に続いて本年発刊されました。年度当初に公民館の亀山分館事業として笹部落の方々の手により、ふるさとの生活史を研究していただくことをお願いいたしましたところ、この趣旨が全面的に受け容れられ遂にこのような立派な内容の「笹生活史」として出版されるに至ったのであります。自主的にこの困難な仕事に取り組まれた編集委員の方々のご努力と物心両面にわたり部落をあげてご協力いただいた皆様方に敬意を表します。

準備会が開かれ、続いて「笹生活史研究会」が結成されて、三十六名の編集委員が選ばれ、そして相川千代治先生が委員長となりました。編集委員の方はいくつかのグループに分かれ、農事多忙の中を寸暇をさいて調査研究し、記録の整理をされ、ここに実を結んだのであります。

豊富な内容を集録されたこの生活史は、文化遺産として永久に保存され、次代に読み継がれるものと思います。公民館としてもこの価値ある文化活動を高く評価いたしたく、一言述べて発刊に際してお祝い言葉といたします。

先人の生活の足あとを掘りおこして

笹生活史編集委員長

相川 千代治

住家は建て替えられ、道路は一変し、灯りや生活用品も昔の面影を残さなくなって何一つ不自由を感じない豊かな生活を送っている昨今ですが、なぜか心の淋しさが増すような気がしてなりません。各地で「ふるさと運動」が起っていることから推測できるように、やはり先人の歩んできたふるさととの生活のようすをふりかえって、自分達の生活の方向を考えることがだいじではなからうかと思えます。

わがふるさと笹は、古社の一つである山神社があり、昔からの交通の要地でもありました。そして有名な僧侶、土地の開発者を産み、住民は郷土愛に燃えて生活を続けてきました。しかし、住民の多くは忘れ去らうとしています。

たまたま、上総公民館から、笹の昔の生活を書き残したらどうかという話があったので地区で相談して生活史研究会をつくって資料集めに取りかかったわけですが、編集委員の中には、たいへんよいことだが家を建て替えるときには古い書きものや道具類はみんな燃してしまった、こんなことがあるなら残しておけばよかったなどと昔を懐かしむものもありました。それにしても、先人の生活のあしあとが掘りおこされて編集の意義を認めました。

特に、東京の民族学者瀬川清子先生が、昭和九年に香木原を中心に取材された未発表の貴重な資料を快く提供して下さったことについて深く感謝申し上げます。

この冊子は、一部の記録にすぎませんが、先人の歩みを知るうえに少しでも役立てば幸いです。これからも笹の生活の記録は続けたいと考えています。

終わりに上総公民館の職員の方々、編集委員および資料を提供して下さい下さった皆さんに深く感謝申し上げます。

目次

一、村の歴史	一	肥料のいろいろ	三〇
亀山郷と上郷の由来	一	稲の品種の移りかわり	三一
上総国亀山郷村附短歌	二	米の管理	三二
行政の移りかわり	三	畑作	三三
笹村	七	酪農	三四
笹の起り	七	家畜	三五
笹の地質	八	牛馬の世話	三六
二、日常生活	一〇	炭焼き	三七
食生活	一〇	木炭の売買	四〇
あかり	一三	製炭組合	四一
すまい	一七	笹共有林野及び共有田の概要	四二
屋根葺替工事	一八	亀山村笹愛林組合	四四
改良かまど	二〇	笹担当区官舎	四六
三、生産	二二	土地開発	四七
米作りの流れ	二二	農業関係の制度・機構の移り変わり	四八
四、職業	五二	職人今昔	五二
唐箕	五四			

竹 五四

便利屋 五六

かせぎ 五七

五、教 育 五八

教育史 五八

笹と学校 六一

六、笹の先覚者 六五

大阿闍梨円詮行状記 六五

智 禅 六八

東阿法印 六九

七、水と生活 七一

飲み水の確保 七一

水車の思い出 七二

水利組合の変遷 七三

八、交 通 七九

道 路 七九

駅 場 八三

鉄 道 八四

九、おもいで 八六

ラジオ 八六

ピーポー馬車 八六

通 学 八六

活動写真 八七

にわとり 八七

うさぎの世話 八七

あしなかつくり 八八

終戦直前の学校生活 八八

戦時中の青少年の歌 八八

醤油買い 八八

縁起の腹巻と出征 八九

松やにとり 八九

戦時中の青年団 八九

処女会行事に参加……………八九

国防婦人会……………九〇

衣料切符……………九〇

戦時中の学童疎開……………九一

遊びの思い出……………九二

十、伝説・昔ばなし……………九八

源頼朝と笹……………九八

摺コギ棒で一駄草を刈った話……………九九

十一、生活行事……………一〇一

笹の年中行事……………一〇一

香木原地区の年中行事……………一一一

昔の結婚のしきたり……………一二二

十二、芸 能……………一一六

神楽唄……………一一六

上郷節……………一一六

亀山音頭……………一二六

むかし流行したなぞなぞ……………一一六

十三、寺社と信仰……………一一八

彌陀山福満寺明覚院年譜……………一一八

山神社……………一二二

神 楽……………一三〇

閑居様……………一三三

奥州まいり……………一三五

十四、世帯の移り変わり……………一三九

笹生活史編集委員名簿……………一五七

あとがき……………一五八

